

日本での研究・就業促進目指して

JST、インド人若手研究者交流イベントを開催

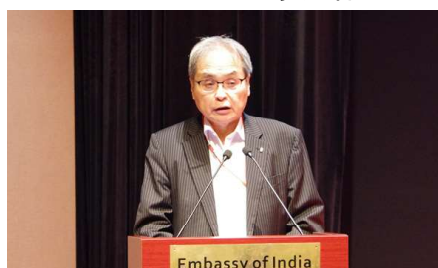
科学技術振興機構(JST)さくらサイエンスプログラム推進本部は7月28日、駐日インド大使館(千代田区九段南)において、インド人若手研究者対象の「インド若手科学頭脳循環プログラム」(LOTUS Programme)『招へい者の集い』を開催した。

同プログラムは、日本とインドの大学・研究機関による共同研究を通じて、インドの優



参加者による記念撮影

秀な若手研究人材を招へいし、両国の教員が共同で指導を行うことにより、自身の日本でのキャリア形成を目指すもの。同イベントでは、2025年度に開始する同プログラムの試行版「2024年度インド若手研究人材招へいプログラム」に採用された、日本の大学・研究機関で研究活動を行うインド人若手研究者のうち42名が集い交流した。ポスターセッションやロールモデルとして日本で最先端の研究をリードするインド人教員との交流、研究者同士の交流を通じて、将来の日本での研究や就業に向けたモチベーションアップが図られた。



挨拶する橋本理事長

当日はまず、JSTの橋本和仁理事長が挨拶し、「日本とインドには、科学技術イノベーションの分野で、より深く、ダイナミックな協力関係を築くための大きな可能性がある。このプログラムに参加するインドの若手研究者の皆さんには、今後の研究キャリア構築の第一歩として記憶に残る経験をしていただきたい」と述べた。また、シビ・ジョーシ駐日インド特命全権大使からビデオメッセージが送られた。なお、JSTでは2025年度の同プログラム採用者数として270名を予定しており、現在公募申請を受付中である。